

県産飼料増産による酪農・肉用牛生産基盤の強化：岡

山県美作県民局畜産第二班 藤原希

飼料価格高騰の長期化により、県内では牧草等国産飼料の需要が高まっている。一方、牧草生産が盛んな蒜山地域では、①夏枯れ等による既存草地の生産性低下、②大根連作後の地力低下等による遊休農地の増加が課題。そこで、管内酪農・肉用牛農家全97戸を対象に飼料生産に係る現況調査を実施。調査の結果、蒜山地域では、約半数の農家が25ha/戸以上の草地でチモシー等の多刈牧草を作付し、余剰分1,100ロールを地域内外22戸へ販売する等盛んに生産。一方、農家と現地確認した結果、作付面積あたりに要する労働力不足や草地の点在が草地更新頻度の低下等につながっていることが判明。より効率的かつ良質な牧草生産が可能となるよう、既存草地や周辺遊休農地の集積・集約化の要望をとりまとめ、草地整備事業を提案。事業化に向け関係機関と調整を進めることで、県産飼料増産体制を整備し、畜産経営の安定化を図りたい。